

2027年3月期 第1四半期 決算補足説明資料

業績概要と今後の取り組み

 **エンターテインメント株式会社**

東京証券取引所 スタンダード市場 証券コード 4650

2026年8月14日(金) 代表取締役社長 塩田 徹

I 第1四半期業績ハイライト

売上高

1,242百万円

前年同期比 +12.1%

就労支援事業の開所・売上寄与により
トップラインが力強く伸長

営業損益

▲7百万円

前年同期比：+130百万円

売上総利益の拡大と費用コントロールにより、営業損失は前年同期の123百万円から7百万円へ大幅に縮小。新規開所に伴う先行コストを吸収し、損益均衡水準まで改善。

自己資本比率

38.4%

前期末同水準を維持

健全な財務基盤を維持しながら
成長領域への投資を推進

Ⅰ 連結貸借対照表サマリー

現金及び預金は1,063百万円を確保し、必要な手元流動性を維持。有利子負債の返済を着実に進めつつ、自己資本比率は38.4%を維持。

資産の部（単位：百万円）			
科 目	2026年3月期末	2027年3月期1Q	増 減
流動資産	1,795	1,689	△106
現金及び預金	1,025	1,063	+38
売掛金	387	301	△85
その他流動資産	383	324	△59
固定資産	2,897	2,925	+28
有形固定資産	2,434	2,459	+25
無形固定資産	86	82	△3
投資その他の資産	376	383	+6
資産合計	4,693	4,615	△78

負債・純資産の部（単位：百万円）			
科目	2026年3月期末	2027年3月期1Q	増減
流動負債	2,080	2,044	△35
買掛金	143	94	△49
短期借入金等（※）	1,395	1,393	△1
固定負債	810	798	△12
長期借入金	596	563	△32
負債合計	2,891	2,842	△48
株主資本	1,788	1,757	△30
純資産合計	1,802	1,772	△30
自己資本比率	38.4%	38.4%	維持

※短期借入金等には、1年内返済予定の長期借入金を含みます。

■ 財政状態と自己資本比率

資産・負債の状況

- 総資産：4,615百万円（前期末比 △78百万円）
現預金は1,063百万円を確保し、手元流動性を高水準に維持。
- 負債合計：2,842百万円（前期末比 △48百万円）
買掛金の減少や借入金の返済が進み、有利子負債の圧縮を維持。

純資産と財務健全性

- 純資産：1,772百万円（前期末比 △30百万円）
株主資本 1,757百万円を維持。
- 自己資本比率：38.4%（前期末 38.4% と同水準）
1株当たり純資産は197.92円。成長投資の継続と財務の健全性を両立。

連結損益計算書サマリー

就労支援事業において、前期に開所した事業所の売上寄与により、売上高は前年同期比12.1%増加。売上総利益の増加137百万円に対し、販管費の増加を21百万円に抑制したことで、営業損失は前年同期の123百万円から7百万円へ大幅に改善。新規出店数の減少により先行投資負担も軽減し、収益化フェーズへの移行が進展。

項目（単位：百万円）	2026年3月期1Q	2027年3月期1Q	前年同期比 増減額	増減率
売上高	1,108	1,242	+134	+12.1%
売上原価	75	72	△2	△3.9%
売上総利益	1,033	1,170	+137	+13.3%
販売費及び一般管理費	1,156	1,178	+21	+1.8%
営業利益（△損失）	△123	△7	+115	改善
経常利益（△損失）	△132	△17	+114	改善
親会社株主に帰属する四半期純利益（△損失）	△108	△30	+77	改善

セグメント別売上高比較

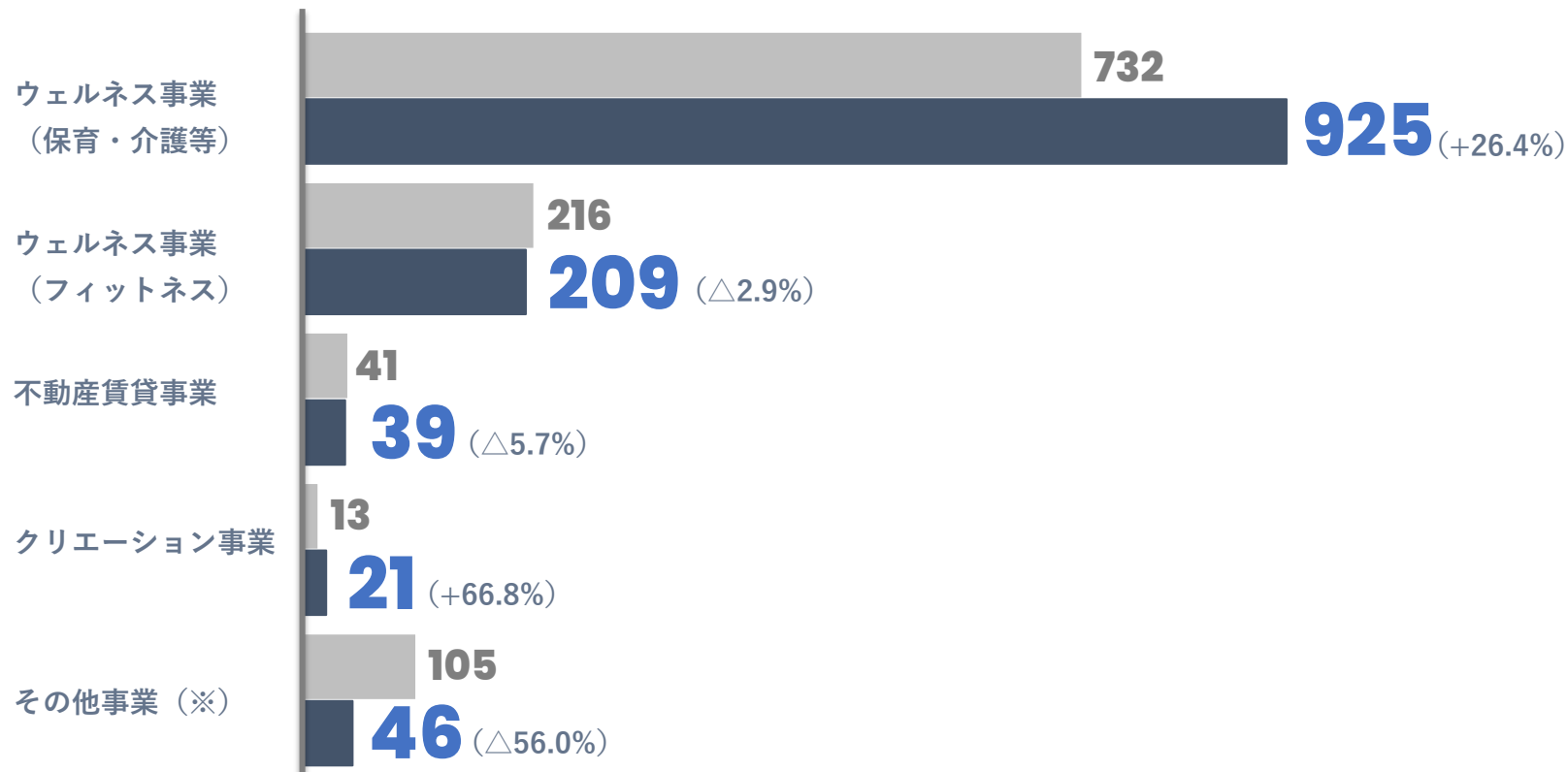
ウェルネス事業（保育・介護等）
が就労支援B型事業所の積極展開
により全体を力強く牽引

保育・介護等は925百万円、前年
同期比26.4%増となり、売上成長
の中心に

クリエイション事業も海外展開効
果で急回復

セグメント別売上高比較（単位：百万円）

※（ ）内は前年同期比増減率



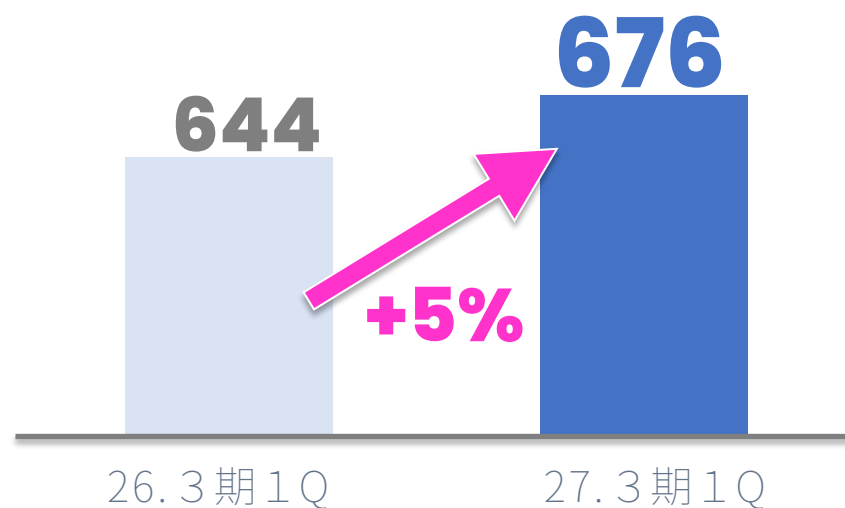
※その他事業の減収は、前年同期にEC事業で一時的な売上計上があった反動によるものです。

I ウェルネス事業：保育

保育事業は、既存園の安定稼働とサービス品質向上により前年同期比5.0%増収。

園児充足率は業界平均を上回る水準で推移し、ウェルネス事業の安定的な売上基盤として成長を継続。

【売上高比較（単位：百万円）】



園児充足率推移比較

	4月	5月	6月
26年3月期	85.1%	87.1%	89.4%
27年3月期	86.7%	87.7%	89.2%

4～6月を通じて、業界平均を上回る水準で安定推移。

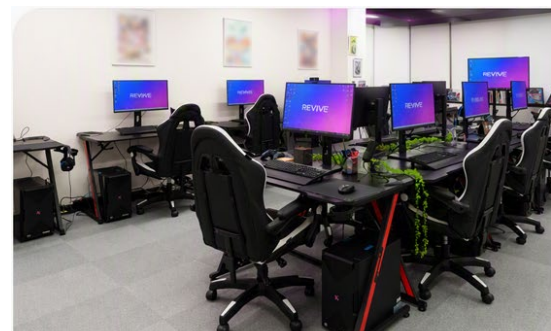
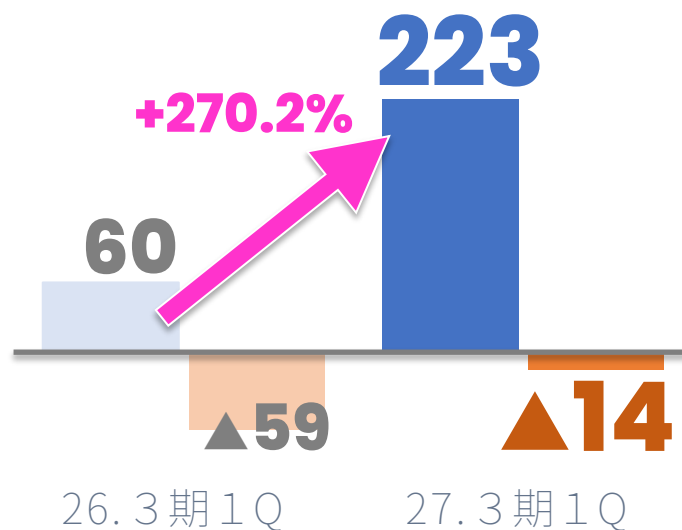
※企業主導型保育事業の平均定員充足率は、2026年4月初日時点で69.3%

ウェルネス事業：就労支援

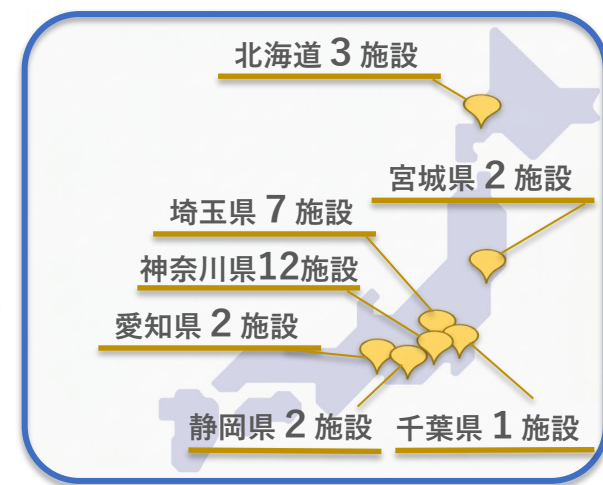
拠点拡大と既存拠点の稼働向上により、売上高は前年同期比270.2%増と急伸。

売上拡大に伴い営業損失は45百万円改善し、収益化フェーズへの移行が進展。

【売上高・営業損益比較（単位：百万円）】



全国**29**施設へ
拠点網を拡大
今期1Qに**7**施設を新規開所

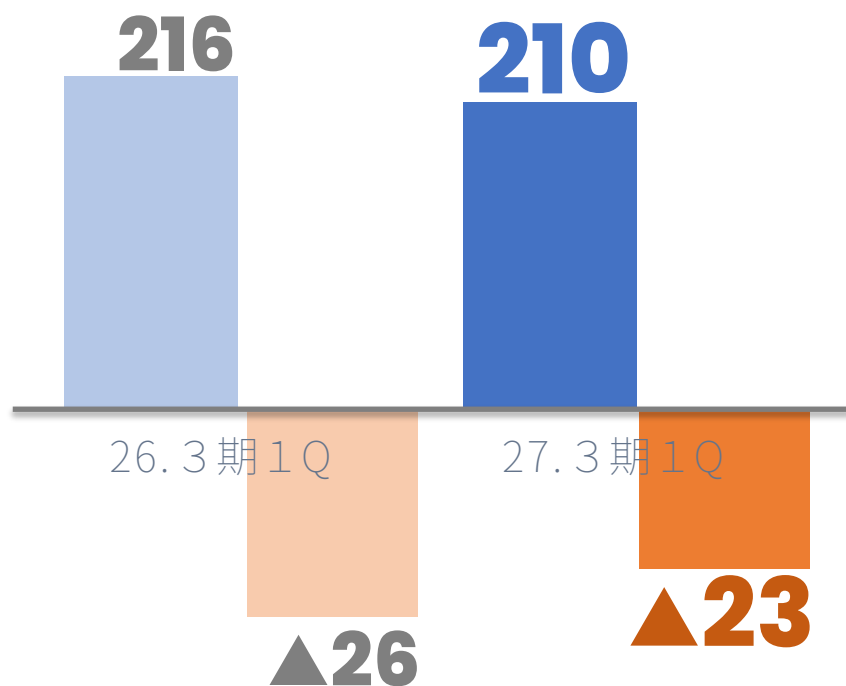


I ウェルネス事業：フィットネス

売上高は前年同期比2.9%減となったものの、不採算店舗の整理・見直しや運営効率化により、営業損失は26百万円から23百万円へ縮小。

高効率業態への転換を軸に、既存店の収益性改善を推進。

【売上高・営業損益比較（単位：百万円）】

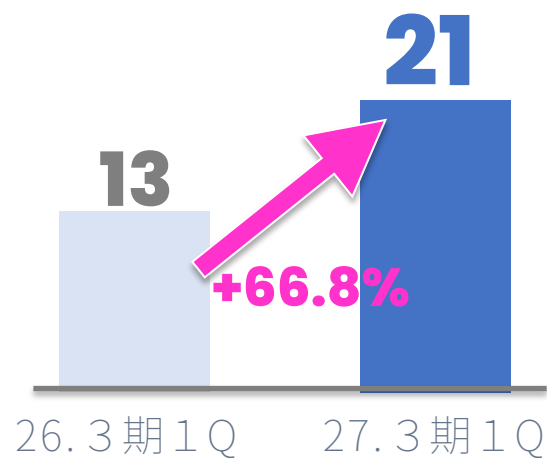


- 収益構造の見直し：不採算店舗の整理・見直しや運営効率化により、売上減少下でも営業損失は縮小。
- 高効率業態への転換：収益性の高い業態への転換を進め、売上寄与は今後段階的に顕現する見通し。
- サービス品質の向上：指導者育成セミナーや既存店の設備更新を通じて、顧客満足度と継続率の向上を推進。

Ⅰ クリエーション事業・不動産賃貸事業の概況

クリエイション事業は海外展開により回復基調。

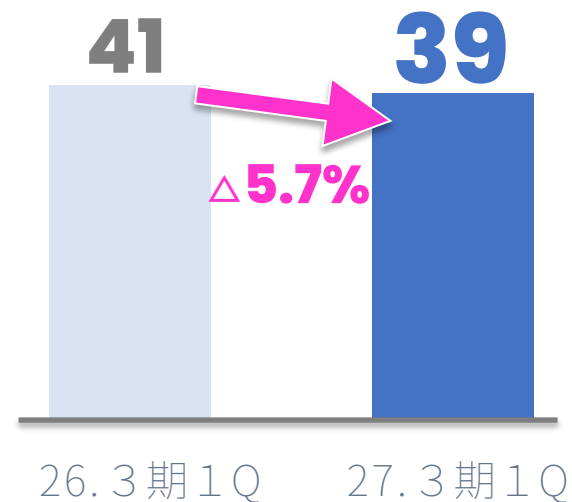
【クリエイション事業 売上高比較（単位：百万円）】



- 海外展開の進展により売上高は前年同期比66.8%増。小規模ながら黒字を維持し、回復基調が継続

不動産賃貸事業は安定収益基盤として利益貢献を継続。

【不動産賃貸事業 売上高比較（単位：百万円）】



- 一部契約条件変更等により減収となったものの、安定した利益貢献を継続。新規テナント誘致に向けた取り組みを推進。

2027年3月期 通期業績予想

収益構造の改善が進展し、本格的な成長軌道への復帰を目指します。

通期 売上高 予想

5,300百万円

前期比 +2.8%

就労支援の拡大等による増収

通期 営業利益 予想

350百万円

前期比 +386.6%

構造改革成果と運営効率向上で大幅増益

通期 経常利益 予想

280百万円

前期比 +537.4%

経常的な収益力が着実に向上

※親会社株主に帰属する当期純利益は150百万円（前期比△30.5%）を予想。前期計上された助成金等の一過性補助金収入（約3億円）の剥落によるもので、実質収益力は大幅向上。

I 目標達成に向けた3つの重点施策



柱1：事業拡大

就労支援事業の多店舗展開

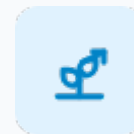
B型事業所「リバイブ」の開所を強力に推進。
社会課題解決に貢献しつつ、スケールメリット
でウェルネス事業全体の成長を牽引。



柱2：品質と収益性

高付加価値化と全社効率化

保育事業の独自英語プログラムやピラティス
の指導育成を維持・強化。高い充足率とコスト
コントロールで利益率向上を推進。



柱3：持続的成長基盤

人材育成と新規事業検討

研修・教育投資を通じて組織力を強固にし、
サービスの質を維持。将来の事業ポートフォリ
オ拡充に向けた新規領域の開拓。

免 責 事 項

本資料は、当社の企業説明に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性・完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがありますので予めご了承ください。

 **エンターテインメント株式会社**